

【5年生 総合的な学習の時間】「地域の魅力を伝えよう」

問題発見：岸和田市のみりよくは？『小テーマを見つける』

情報収集：教科書、副読本「私たちの郷土」、インターネット

整理分析：文章構成を考えよう

表現発信：文章作成（事実と発見）⇒絵や写真 を効果的に使う

パフォーマンス評価「S」:

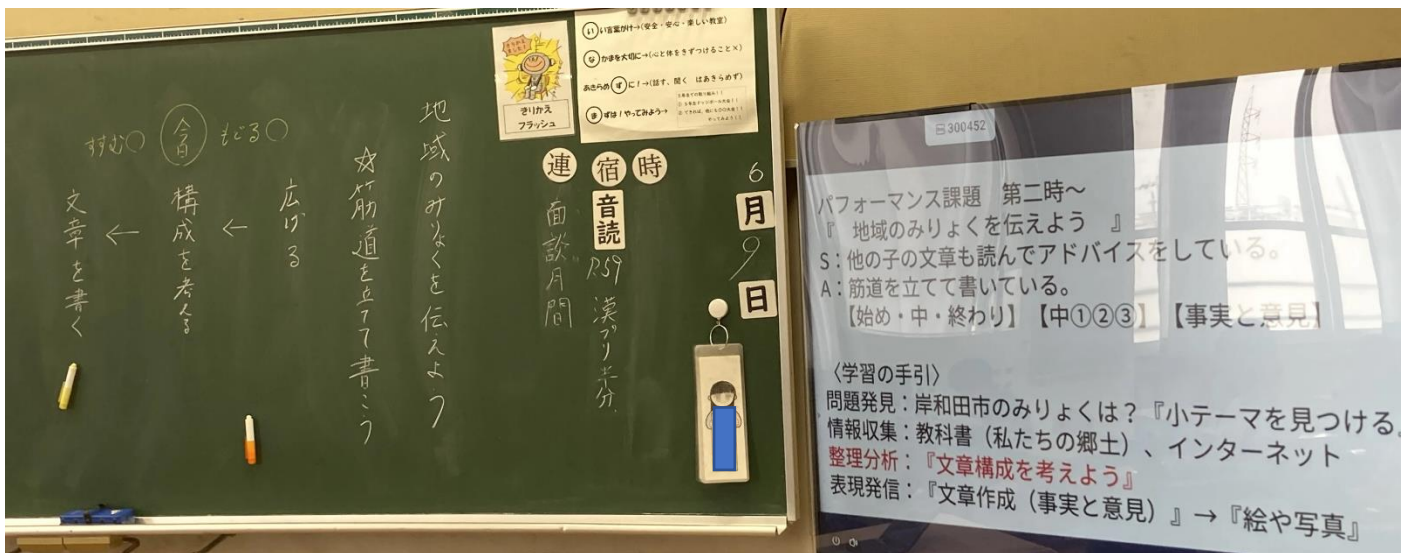
他の子の文章も読んでアドバイスをしている

パフォーマンス評価「A」:

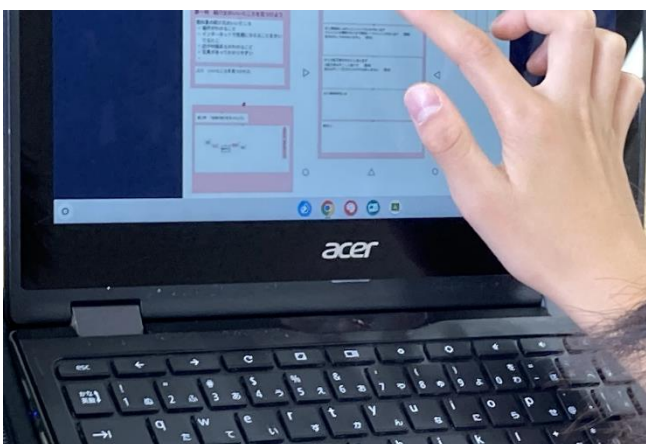
筋道を立てて書いている（始め・中・終わり、中①②③、事実と意見 など）

問題発見 ・ 情報収集

本単元全体の学習の流れとパフォーマンス評価の明示 自身の進捗状況、次にすることについて視覚支援

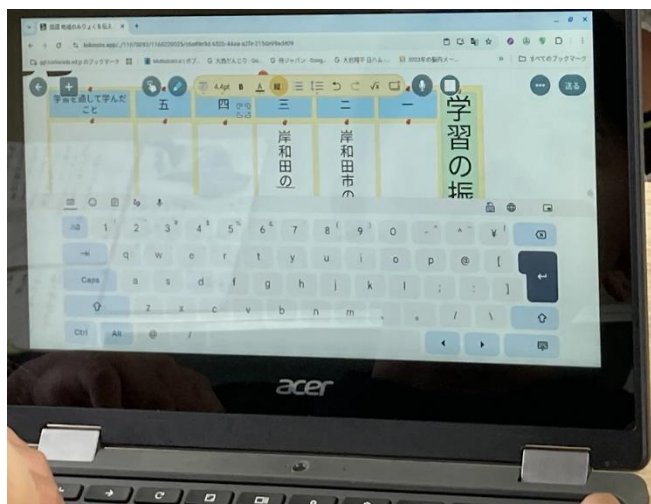


整理分析 文章構成を考える



最初からまとめとして文章を書くのではなく、項目別に箇条書きでメモとしてワークシートに入力することから始める。並べる項目そのものや順番、キーワードについて学級全体で共有し、お互いにアドバイスをしあうことでみんながブラッシュアップできる学習をめざす。

振り返り 単元内の活動ごとに振り返りを書き、1つのシートにまとめることで「振り返りの深化」を実感



【授業者、観察者の振り返り】

- ・単元全体計画を明示することで、次に何をするかについて児童が質問をすることが大幅に減った。
- ・毎回の振り返りを1つのシートにまとめることで、単元をととしての振り返りやその深化を追える。
- ・「良い文章構成」について、授業者は児童に示しているか。児童はそれを理解しているか。
- ・情報活用能力を育てる目的の一つに『教科・学習の目標をSTFな学びで達成するためのツール』としての活用があげられる。学習用タブレット端末を使うこと自体が目的ではないことを折に触れて学校として確認することが大切。
- ・郷土の魅力を伝える、という活動は児童の興味関心をひきやすい。ただ、学習用タブレット端末を使うことがすべての児童の意欲の維持につながるとは限らない。(手書きで模造紙に書く方が好きな児童もいる) 児童の興味関心が維持できるような働きかけ「学びの必然性」が大切

【例】まとめたことを下級生、保護者、市内他校・他市の児童に発信

児童集会で発表、校舎内に掲示